

こども記者が聞く！ 農業の工夫と苦勞 教えて

「おいしかった」が一番のよろこび

大変なのは天気、肥料、春の種まき…

宮城県石巻市の農事組合法人ビッグベリーランドパートナーシップは、コメや麦、大豆、シャインマスカットを栽培しています。石巻市大谷地小5年の「こども記者」2人、佐々木健さん(10)と佐藤宗馬さん(10)が農業の工夫や苦勞したことなどを取材しました。

(1面に関連記事)

法人理事で佐々木さんの祖父、佐々木文彦さん(67)が「孫記者」の取材に対応しました。法人の名前は「大きな大地の生活協力隊」という意味だそう。文彦さんを含め7人が従事しています。

コメはササニシキやひとめぼれ、餅米など多様な品種を栽培しています。「いろんな品種を栽培しないと、特性を理解し、栽培技術を身に付けることはできません」と話します。天気に合わせておいしいコメを作る工夫の一つです。

「全ての作物に通じますが、肥料をどう使うかがとても大事です。やり過ぎても食味が落ちます」と教えてくれました。

「大変な季節はいつですか」と質問。「春です。稲の種まき、麦の収穫、大豆の種まきなどの作業が集中する。みんなで役割分担して、スムーズに進むようにします」と答えました。

年によって違いはありますが、コメは約90ト、麦は4〜5ト収穫します。

「たくさん収穫できるとうれしい。でもそれよりも『おいしかった』とお客さんに言われることが一番です」。文彦さんの言葉に、こども記者は大きくうなずきました。



麦や大豆の収穫に使うコンバインの前で佐々木文彦さん(左)に取材する「こども記者」の2人

大変な時こそ楽しく

川なみは新型コロナウイルスの影響を受けて、大変な時であっても楽しくやろうという「川なみ」精神で乗り越えたのだと思います。農事組合法人はおいしい物を作るために、工夫や努力を重ねていました。

2カ所の取材を通して、仕事が大変でも、食べてくれた人が「おいしかった」と言ってくれるので、頑張れるのだと気づきました。



佐々木健さん

苦勞の分 うれしさも

川なみの取材で印象に残ったのは「おいしかったと言われた時がうれしい」という言葉です。今まで知らなかったことが分かって、もっと川なみが好きになりました。農事組合法人はいろいろな作物を作っていて、驚きました。

仕事をすることで大変なことはたくさんありますが、苦勞した分、うれしい事が返ってくると感じました。



佐藤宗馬さん

取材を終えて